

令和5年度 第2回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 令和6年2月14日(水)
午後1時15分～午後2時30分

開催場所 キナルなんぶ 多目的ルーム

出席者 陶山町長、瀬田教育委員、畠教育委員、吉田教育委員、種教育委員
土江副町長、福田教育長

事務局 大塚総務課長、岩田教育次長、水嶋総務・学校教育課長、二宮人権・社会教育課長

書記 人権・社会教育課 大塚課長補佐

傍聴人 なし

	【1. 開会】
大塚総務課長	開会 午後1時15分
	【2. 挨拶】
陶山町長	農業や子育て支援が話題であり、課題である。子育て支援は少子化対策となっていない。現実に目をつむっては解決にはならない。少子化対策、子育て支援のバランスをとりながらふるさとを考え、人材育成に努めてほしい。
	【3. 意見交換】
土江副町長	1)「南部町の教育に関する大綱について」 まず、事務局から説明をいただく。
岩田次長	資料の説明
土江副町長	大綱に関して情報提供など、補足を教育長にお願いしたい。
福田教育長	大綱は町長、教育委員会が同じベクトルで考えるもので子育て支援と教育がどう関わり、どう考えていくかというものである。具体的な取り組みは6本、特に不登校は全国でも多く問題となっており、いろいろ要因はあるが、一方ではコロナの影響の有無もあると言われている。2年前、西伯小におられた教員が新たな居場所づくりをしている。居場所は増えているが、最近では「いろいろな場所にいろいろな人を」、という考えが定着しつつある。以前、不登校は学習の確保が必要とされていたが、今は学習を無理にさせない向きもある。また、学校に行きづらい理由を明確にしにくく、学校に行かなくていいハードルも下がっている。外国語活動については世界に通用する南部町民はわかるが、一部の対象者でよいのかという点や、子どもたちの世界に目を向ける意識を育むことも必要である。
土江副町長	今の説明、補足にこだわらず意見・感想をお聞きしたい。歩調を合わせず、思いを話してほしい。
瀬田委員	「ふるさととともにあり続ける」という思いを持ち続ける教育を具体的に考えていく必要がある。同級生も県内におらず、同世代も同様である。ふるさと南部町を大切にしていきたいと思えるような住みやすさ、暮らしやすさを考えていきたい。大綱での思いを具体的にはどうしたらいいかと悩んでいる。以前若者議会で町に産婦人科を作してほしいという話があったが、子どもの数や流出にも影響があると思っている。一緒に考えたい。
畠委員	米子のベッドタウン的な位置づけで家を建てる場所を探している人も多い。便利も良くなった。若い世代が家を建てるとう育てが問題になってくる。西伯病院に病児保育の手伝いに出たことがあるが同じ人しか利用しない現実がある。子育てでは夫婦どちらかが休んで面倒見ているがこれがどうかできると良い。また、孫がおばあちゃんの顔をを見たくないということもある。子どもと高齢者など年代を越えた交流がもっとあるといい。

陶山町長	西伯病院の病児保育は休憩中。現在は米子市と連携して実施している。若い世代の住まいへの考え方は変わってきた。同居ではなく近居、できれば町内のが主流。都合の良い時お世話になり、悪い時は離れている。保・小・中・高に対象が及ぶと本当に平等かと考えさせられることもあり、補助が本当に必要なところに手当できているかと思う。
吉田委員	不登校の件、心配なことであり、数の増加も気になる。ふるさととは「安心する場」であり、信頼できる大人に出会うという体験ができれば、将来的に他のタイミングでもつながれる。小さな町だからこそ生き方などが話せる場があったらいい。不登校に対して、優しく接するだけでない体験をさせることも必要。どうしたらいいか自由な発想で考えられたらいい。相談できるから帰りたいと思えるような南部町へ。
福田教育長	何をしても同じ人が来て、同じ人が来ない。子どもたちにとって、ふらっと行ける場は人生には必要。子ども食堂などで教員が見ると、課題のある子も来ている。学校には行けないが、表彰式であれば来られる子もいる。学校=教育、出席とかではなく、自由に集える場所が一方では必要である。子ども食堂を見ると「ここは大丈夫」という安心感がある。学校だけでなく、地域で見守る。高校生サークル・青年団はあるが、その他の居場所が必要。若者の居場所を作るのはいいと思うが、若者自身がやる仕組みができるといいと思う。
吉田委員	若者が起業するなど活動できるといい。そういった手助けがあるといいかもしれない。
瀬田委員	若者が住みやすい南部町をどう考えるかは仕事や起業につながってくる。子どもたちは中学まで町にいてよく覚えており、思い出を大切にしてくれることもふるさとを大切にしていくことにつながる。子どもたちの思いを大切にすることが重要。
種委員	米子に勤めていたため、町のことがわかっていない。初心者なので、学んでいきたい。不登校の子どもたちが行けて、心地よくいられる場所を作っていこうとされていると思うが、受け入れ体制が心配。JOCAのお店での不登校の対応も考えられているようだが、一緒なのは不安であったり、心配であったりしている。
陶山町長	米子市のひきこもり相談に出かけたところ、西部地区での共同事務はできないかという話になった。南部町は「社会教育」がすばらしいと声をかけていただいた。不登校・引きこもりの対策として日本財団助成でJOCA南部が運営する身体・知的障がい・引きこもりの方がごちゃまぜで活躍できる場所となる。一人ひとりの状況は違い、ぜひチャンスの一つとして大人と出会ったり、地域・社会とつながったりできる人になってほしい。一方で、学ぶだけならある。記憶はAIに代わるが、学ぶ価値は変わらない。多様な価値観で過ごすなかで、多様を認め、チャンスを与えるという町でありたい。
土江副町長	住みやすさ、子育て、つながり、子どもの居場所、多様性などキーワードは出たと思う。南部町で生まれる子どもの数は入学・卒業時に転入により増えている。少子化対策としては産むか転入してもらうしかなく、特徴のある教育・保育がアピールポイントになる。外国語活動(英語に限らず)や魅力ある学校について意見をいただきたい。
瀬田委員	会見二小の少人数で行き届いた教育、自然の中で子ども、先生と一緒に学び、地域を巻き込んで大事にしていく教育。反面、大人数に溶け込むことに課題があることもある。社会に出て集団生活にどうつなげるか、人材育成や次代につながる成果に手助けできる教育を考える。
畠委員	外国語は必要に駆られるとできる。今、生の英語を聞いている子どもたちはしゃべれなくても聞けると思う。新聞に英語活動をやめてしまえという意見もあり、そういう考えもあるのだと知った。
吉田委員	南部町ならではの特色ある体験をすればいいと思う。田植え稲刈りなどの作る体験は一部

	でなく、通してやったほうが、失敗も含め経験となる。失敗を通して自分たちの工夫ですることも大事。成功できない体験も重要。体験のつまみ食いでなく、一貫したものが良い。
種委員	若い時に努力できればよかった。楽しんでいるなかで自立することにつながればよい。
土江副町長	みなさんの話を盛り込み、大綱を検討させてもらう。
福田教育長	南部町は他所よりふるさと教育をやっているが、もっとやらないといけないと二十歳の集いに参加すると考える。家に田畑はるのに、家で農業に関わらず、学校で農業体験をするようなことは今の教育の問題であり、転換していくことが必要。ただ、保護者に予告しておく必要がある。学びなおし(リカレント)は一定時期に来たらする。障がいのある方の生涯学習など対応ができていないことが今後の課題である。
土江副町長	最後に教育長から総括をお願いする。
	【4. 挨拶(総括)】
福田教育長	外国語教育はALTを入れることで子どもは生の英語には触れている。ただ、コミュニケーション能力が高ければ結果的に外国語教育は伸びる。英語教育が早まったせいで、小学校で英語嫌いが出してしまうと中学校では挽回できないということもある。また、SDG'sで誰一人取り残さないとしているが、何をもってそういうのか。現実に学校に行きたいけど行けない。本当は行きたいけど、行けないなら、その障がいを除かなければいけない。みなさんの意見を大綱に盛り込んでいきたい。
大塚総務課長	次回、夏に開催すると思うので外国語を含め、南部町教育をよろしく願いいたします。
	【5. 閉会】
	閉会 午後2時30分